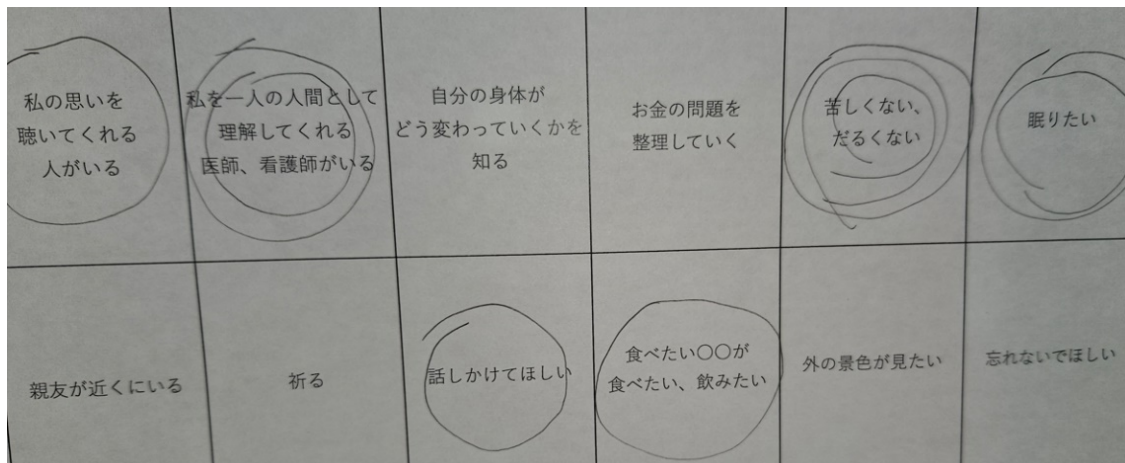


ACP 学習会をおこないました

20240907

ACP とはアドバンス・ケア・プランニングは将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。患者さんの人生観や価値観、希望に沿った、将来の医療及びケアを具体化することを目指しています。厚労省が使った「人生会議」というワードに対しては医療職からは少なからぬ異論があります。

ACP 研修の講師は流山市で 20 年以上訪問診療に携わってきた戸倉直実医師です。研修には 18 名の訪問看護師と事務が参加しました。ACP の基本姿勢である「傾聴というコミュニケーション技法」医療職の価値観や感情を脇に置いて相手とむきあうということについて講義を受けました。講義のあとは「もしバナゲーム」をつかって人生の終わりが近い時、自分が何を大切にしたいかを選び、聴き手から質問をうけて伝える体験をしました。



体験の感想はなかなか新鮮なものでした

A：「考えるのも、聞かれるのもいやだと感じた。医療職と自分では圧倒的に情報量がちがうから答えられない」（事務）

B：「答えを求めがちな自分に気が付いた」（看護）

C：「死や老いを考え不安を感じた」（事務）

D：「選んだカードの理由や家庭背景を聞いてもらえると安心感があつた」（看護）

「プラン、」といっても、ACP は聞いておくこと、決めておくこと・計画することよりも対話と共感のプロセスの連続であり、それが利用者さんの思いを引き出すことにつながる。医療職としての姿勢を見つめ直す貴重な機会となりました。

訪問看護は利用者さんが自分らしく生ききることを支援します。

